ALL LIVING BEINGS ARE CREATED EQUAL

# 徳洲新聞

TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP NEWS

18/SEP. 2017　No. 1100
9月18日 月曜日
www.tokushukai.jp

発行：一般社団法人徳洲会
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-1-1 麹町311ビル8階
TEL：03-3262-3133
制作：一般社団法人徳洲会　編集室
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-1-1 麹町311ビル8階
TEL：03-6272-3687 FAX：03-3263-8125
Email：news@tokushukai.jp

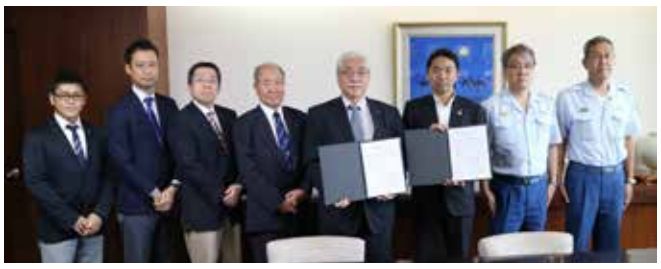
湘南鎌倉総合病院

## 医師が救急車に同乗し支援

### 派遣型救急ワークステーション　鎌倉市と協定締結

湘南鎌倉総合病院（神奈川県）は7月31日、鎌倉市役所で「救急救命士再教育病院実習にかかる派遣型ワークステーションに関する協定」を締結した。これは病院実習を行う救急隊員が、有事の際に医師とともに救急車で現場に向かい、病院前救護体制を強化することで救命率の向上を図るのが目的。締結式には松尾崇・鎌倉市長、同院の篠崎伸明院長らが出席し、さらなる連携強化を誓った。

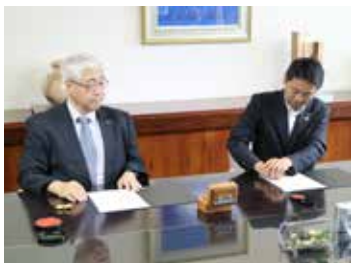
### 救命率や社会復帰率が向上


協定書を手にする篠崎院長（右から４人目）と松尾市長（その右）

協定は救急救命士が生涯学習として行っている「再教育病院実習」を、救急車とともに救急隊員（３人チーム）ごとに派遣することで実施し、必要に応じて救急医が同乗した救急車で現場に出動、医師から直接指導・助言を受けることにより、救急技術や知識の高度化を推進する。

救急現場では、早い段階から医師による医療介入ができるため、救命率の向上を図ることが可能になる。徳洲会グループの病院では湘南厚木病院（神奈川県）が２０１３年４月から、福岡徳洲会病院が15年４月から実施している。

締結式で松尾市長は鎌倉市の救急車出動件数が14年に1万件を超え、年々増加していることを明かした。今後、ますます救急需要が高まる見込みであり、そのなかに含まれる重篤な救急患者さんに対し、適切な対応が必要になると強調。「病院前救護体制の充実と強化を図ることは、市民の救命率の向上につながります。市民の安全のため、今回の協定はとても心強いです」と挨拶した。


締結式で互いの連携強化を誓う

これに対し篠崎院長は「市民に貢献できるのは、嬉しく思います。救命率に加え、社会復帰率をさらに高めるため、救急隊員としっかり協力していきたいです」と、さらなる連携強化を約束した。

#### 看護師も同行

救急ワークステーション（WS）は8月7日から毎週月曜に実施し、全29回を予定。鎌倉市消防本部にある各出張所からローテーションで同院に救急隊員が派遣され、救急車は同院敷地内に待機。出動要請がかかるまで救急隊員は、さまざまなプログラムからなる病院実習に取り組み、有事に備える。

出動要請がかかると、同院の場合、救急隊員に加え医師と看護師も一緒に現場に駆け付ける。

本来、WSは救急隊員の教育的な側面が強いため、同乗するのは医師のみで、現場でも医師は直接医療行為を行わず、救急隊員に指導する立場を取ることが多い。しかし、今回の協定では、教育的な側面をふまえつつも救命率の向上を第一に考え、医師は積極的に医療介入し、そのサポートとして看護師も同行することとなった。

救急車の備品を確認する大淵センター長（車内右奥）

救急隊員に再教育実習の内容を説明する山本医長（左）

医師が同乗するメリットについて、同院の大淵尚・救命救急センター長は救急救命士の職域を指摘する。救急救命士は静脈路の確保、医療器具を使用した気道確保、薬剤投与といった特定行為を行うことができる資格がある。

これは医療行為であるため、医師と無線で連絡を取り、医師の許可を得ないと行うことができない。「一分一秒を争う救急現場で、医師の指示を待つのはもどかしいものです。医師が現場に駆け付けたほうが、スムーズかつ高度な病院前救護を実施することができます」と説明する。

救急車への同乗は、大淵センター長をはじめ山上浩・救急総合診療科部長、梅澤耕学・同科医長、山本真嗣・同科医長の４人がローテーションで実施。同院のWSの責任者である山本医長は「現場での処置には経験が必要であり、急な出動要請にも対応できる役職スタッフが担当します」と経緯を説明する。看護師も7人を固定メンバーとし、ローテーションで対応するという。

病院実習では救急隊員が、搬送された患者さんへの処置をサポート

WSでの出動要請には判断基準として「（脳卒中を疑う）突然の激しい頭痛」、「喘鳴（ぜんめい）呼吸」、「多量の吐血」などキーワードが決まっている。これをふまえ通信指令室が総合的に判断して出動要請を行う。8月にWSは4回実施したが、そのうち出動要請がかかったのは2回のみ。山本医長は「始まったばかりなので、いまだ遠慮があるのかもしれません。こちらはいつ出動要請があっても対応できるよう、万全の体制を整えておきます」と胸を張る。

今回の協定について大淵センター長は「私たちが救急医療をできるのは、救急隊員のおかげです。これまで私たちは病院で待っているだけでしたが、これからは外に出ていって救命率の向上に励みます」と誓い、さらに「まずは週1回の派遣型で課題などをあぶり出し、ゆくゆくは常設型の救急ワークステーションができれば良いと思います」と展望を語っている。

## 新病院の建設現場

### 和泉市立病院が公開

### 夏休み親子病院見学ツアー開催

和泉市立病院（大阪府）は8月6日、昨年に続き「夏休み親子病院見学ツアー」を開催した。今年で2回目。同院は、来年4月の新築移転に向けて新病院の建設工事を行っており、目玉として建設現場の見学をツアーに組み込んだ。和泉市内に通学する中学生7人と保護者6人の計13人が参加した。

見学ツアーは昨年同様、現病院で採血（希望者のみ）、CT（コンピュータ断層撮影装置）や血液高速自動分析装置の見学などのほか、今年はさらにミニ健康診断や救急車、アンプルピッカー（注射薬自動払い出しシステム）の見学を新たに実施。

救急車の前ではナース服や白衣を着て記念写真。生徒たちは嬉しそうに撮影に応じていた。実際に病院の減塩食を食べたり、ミキサー食・きざみ食との食べ比べを行ったりもした。最後に新病院を訪れ、建設現場を見て回った。

参加した生徒からは「病院の細かなところまで丁寧に教えてもらったので興味をもった」、「新病院が完成するのが楽しみ」といった感想が上がり大好評だった。

櫛引健一事務長と総務課の野村仁美職員は「来年には新病院に移転し、さらにパワーアップした当院を見ていただけると思います。来年も多くの方々に参加いただけるよう、見学ツアーをより良いものにしていきたい」と話している。

安全に配慮しながら親子が新病院の建設現場を見学

第１回消化器がん研究会

## 参加者を大募集!

### 徳洲会オンコロジープロジェクト

徳洲会は消化器がん診療のレベル向上のため、第1回消化器がん研究会を10月22日に都内で開催する。消化管悪性腫瘍に対象疾患を絞った症例検討会を実施。副作用や合併症による治療困難例など教育的示唆に富む薬物療法がともなう症例をテーマに、指定演題と公募演題を予定している（下記プログラム参照）。一般参加の対象は徳洲会グループでの消化器がん診療に興味のある医療従事者すべて。受け付けは10月17日までで、積極的な参加を呼びかけている。

**日時：10月22日（日）午後1時～（意見交換会含めて午後6時終了）**
**会場：フクラシア八重洲（東京駅八重洲南口徒歩3分・ユニゾ八重洲ビル3階）**
**プログラム：【午後1時～】●ASCO 2017レビュー（発表：下山ライ湘南鎌倉総合病院オンコロジーセンター長）、●ESMO 2017レビュー（発表：新津洋司郎・徳洲会オンコロジープロジェクト顧問）、●消化器がん症例検討会：指定演題「よくある悩ましい副作用と対策～S-1+ベバシズマブ投与後、高度下痢から敗血症性ショック、急性腎不全を来した一例」（演者：鶴田好彦・千葉徳洲会病院副院長）、「免疫チェックポイント阻害剤の実臨床における多様な免疫関連合併症」（演者：洪鉉寿・八尾徳洲会総合病院腫瘍内科部長）、「札幌東徳洲会病院付属臨床研究センターの取り組み（仮）」（演者：小野裕介・同センター臨床生体情報解析部部門長）、公募演題「未定」、【午後3時20分～】●招聘（しょうへい）講演「大腸がんのconversion therapy～Triplet regimenの可能性～」（演者：佐藤康史・徳島大学消化器内科学特任教授）、●意見交換会**

※ 参加無料。宿泊・交通費は各自負担。申込み・問い合わせは徳洲会グループオンコロジープロジェクト事務局（未来医療研究センター内☎ 03-3263-4801）まで。